

# 洛友會報

京都大学工学部  
電気系教室内  
洛友会  
京都府左京区吉田本町

## 陽 春 雜 記

副会長 大谷 泰之

昭和から平成へと年号が変り、  
本会報が会員の皆様に届けられま  
す頃には、比較的暖かかった冬も  
終って、桜前線の北上も平年より  
可成り早く進んでいることと思  
います。

さてご承知の通り、現在わが国  
の政官財界はリクルート大激動の  
年を迎えています。一方教育界で  
は入試・卒業・就職・入学のシ  
ズンとなり、昨年来の経済産業界  
の好況に支えられて卒業生の就職  
状況も近年になく明るいようであ  
ります。

会員の皆様も益々ご健勝にお過  
しのこととお喜び申し上げます。  
わが洛友会も約121名のフレッ  
ッシュな新会員を迎え入れること  
になります。洛友会としても新卒  
業生の前途の発展と多幸を祝福す  
るとともに心から歓迎したいと思

います。これで会員総数は物故者  
や住所不明者を除くと計5300  
名を超えることになり、会の状況  
や運営も益々充実発展しておりま  
すことは全くご同慶の至りであり  
ます。同時に本部及び各支部の役  
員をはじめ会員の皆様のご協力ご  
援助の賜物と深謝申し上げる次第  
であります。

次に前号にも触れておきました  
が、会長松田長三郎先生は昨年11  
月末に満95歳の誕生日を迎えら  
れ、本年に入ってもお元気に自宅  
でご静養中であります。そして本  
年1月4日の京大本部で開かれた  
名刺交換会にもお元氣な姿を見せ  
られて後、母教室で開かれた新年  
会でも乾杯と新年挨拶のお元氣な  
声を聞くことができました。次いで  
1月6日の近畿地方発明センタ  
ーの新年会にも令息の松田長生氏



(立命館大学名誉教授)と共に出  
席されました。その節筆者が撮り  
ました理事長席での先生のスナッ  
プ写真の一枚を茲に載せておきま  
す。尚京大本部で3月下旬開かれ  
る学部卒業式や修士学位授与式に  
も例年通り出席されるものと思っ  
ております。

茲で本部の近況について述べて  
おきますと、去る2月11日京都タ  
ワーホテルで開かれた平成元年度  
の常任役員会には計18名の役員が  
全国各地から出席され、例年通り  
前年度の事業報告と収支決算(見  
込)等の案と本年度の事業計画と  
予算案の審議され、事業として年  
4回(4・7・10・1月)の会報  
(各5300部)と隔年毎の会員  
名簿(4400部)の発行計画案  
が決定されました。次いで役員改  
選案等について近藤文治、竹村清  
両常任幹事から詳細な説明があり  
ましたが、これ等の内容は何れ6

月17日東京で開かれる本部総会  
(同時に東京支部総会も開催)で  
審議され7月の会報で皆様に報告  
される予定でありますので、茲で  
は役員会の概要のみについて述べ  
ることに致します。

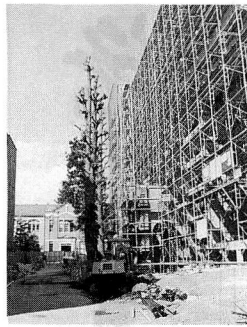
当日は松田会長は欠席されまし  
たが、芦原副会長はじめ本部副会  
長5名本部幹事5名、支部役員8  
名計18名の出席があり、90歳近い  
ご高令の芦原義重副会長(大13)

から70年程前の学生時代の教室の  
状況や大学の将来問題等お元氣な  
話があり最近でも京大後援会のお  
世話等もやっておられる傍ら、何  
でも月3、4回も上京される程の  
お元氣さでありました。又上西亮  
二副会長(昭6)の乾杯の音頭に  
ついて洛友会では年代を超えた縦  
の連携が大切であること等の話題  
があって、次いで母教室川端昭教  
授(昭28本会常任幹事)から教室  
の近況について、教官人事と教室  
西側建物の改築状況について、建  
物の外枠は4月頃取除かれて、玄  
関ポーチや銀杏の樹(一本は大正  
初年、他の一本は昭和の初めに植  
えられた由)が見られるようにな  
ることや7月頃内装が完成する予  
定であること等の報告がありまし  
た。

藤文治(昭18) 竹村清(講昭13)  
各常任幹事荒井一郎(講大10) 神  
戸俊夫(講昭14) 各幹事、更に各  
支部からは中川修一郎(昭15四国  
支部長) 池内義則(昭21北海道支  
部長、増岡健一(昭21九州支部長)、  
坂田邦寿(昭23東京支部長)、  
大野彰(昭25中部支部長)、東徹  
(昭28関西幹事)、井上幸夫(昭31  
中国幹事)、船越利之(昭50北陸幹  
事)等の出席がありました。

以上の各支部長幹事からは支部  
の近況等についての報告がありま  
したが、中部支部の本多静雄副会  
長(大13)はその後も益々ご壮  
健で名古屋民芸協会やその他趣味  
関係のご活躍状況を記載した民芸  
協会誌が当人大野支部長から配布  
されました。尚本多さんは最近、  
地球一周(絵のある旅)と題され  
た本を出版され一部筆者もご寄贈  
を受けましたが、それには一昨年  
末のご夫妻の世界一周11日間の旅  
行記の外、中国各地や桂林等の度  
々の旅行記等が載せられており、  
益々ご壮健なご活躍状況に心から  
敬意を表したいと思います。

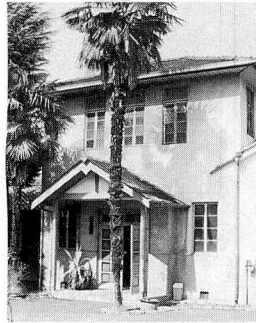
次に当日本部幹事から配布され  
た過去10年間の本会会費収入の推  
移表の説明があり、約10年間会費  
収入は年々増加しており、特に名  
簿電算化のため昭59年頃に急増し  
ており、過去13年間も会費の値上  
げをしていないにも拘らず、その



後も漸増を続けていますがこのことは、役員及会員各位のご協力の御蔭であり(会費納入率も平均62.5%以上であることは次回に報告予定)感謝に堪えない次第であります。

又当日越坂副会長から講習所卒業生の洛友会会の状況等の話があり、近藤常任幹事等からもこれに関連して講習所は故青柳栄司名誉教授が76年前の大正2年に創設され、昭和15年迄に約1300名の卒業生があり現在約280名の会員(居所判明者)があり、隔年毎に京都で全国大会が開かれていくこと等の話がありました。更に同じく大正2年に青柳先生が応用科学研究所(近藤文治理事長、竹村清常任理事)が設立され、又電気評論誌が教室で発刊されたがこれら三大事業は時代を先取りして行われたこと等の話がありました。

尚応用科学研究所は一昨年に新館が完成し洛友会本部事務局が同居させて頂いております。又電気評論社は約20年前株式会社組織とな



り創刊以来通算25巻を数え、現在松田先生が会長、筆者が社長、そして珠玖泰吉(昭17)が常務取締役として、別稿の通り再刊以来永年応用科学研究所2階建旧館に事務所をお借りしていたのを昨年9月より近畿地方発明センター内へ移転すると共に、内容を近代化充実して順調に発展を続けておりますこと等を申し添えます。

尚去る3月6日竹村幹事と共に撮った教室玄関附近及び応用科学研究所新館及び旧館の電気評論社のあつた建物のスナップ写真を載せておきます。

### 電気系教室だより

### 昭和63年度電気系教室 卒業生の進学・就職状況

電気工学教室主任 佐々木 昭夫(昭30卒)  
 電子工学教室主任 板谷 良平(昭28卒)  
 電気工学第二教室主任 木 嶋 昭(昭26卒)

終りに会員の皆様のご健康を祈りますと共に本部及び支部 敷くご援助の程お願い申し上げます。

役員の皆様のご協力に対して厚く 謝意を表します。

種別	学部	修士	進路
官公庁・校力	1	2	宇宙開発事業団、詫間高専、稲場プロジェクト
	4	9	東北電力、東京電力、中部電力、関西電力、九州電力
通信・放送	1	8	NTT、KDD、第二電電、日本国際通信
電気関連メーカー	12	36	三菱電機、日立、松下電産、東芝、日本電気、ソニー、立石電機、YHP、住友電工、古河電工、キャノン、日本IBM、松下電工、島津製作所、リコー、ミノルタ、日本電装、九州松下、京セラ
機械・化学・鉄鋼・その他のメーカー	5	12	三菱重工、住友重機、トヨタ自工、マツダ、三菱ガス化学、信越化学、旭ガラス、新日鉄、日本シュルンベルジュ、川崎製鉄、住友金属、日本鋼管、神戸製鋼、東洋エンジニアリング
	5	2	JR東海、JR西日本、近鉄、阪急、京阪、日本航空、大阪ガス
交通・ガス	5	2	JR東海、JR西日本、近鉄、阪急、京阪、日本航空、大阪ガス
報道・その他	11	5	朝日新聞、野村総合研究所、京都高度技術研究所、住友商事、三井物産、住友銀行、富士銀行、日興証券、電通、伊藤忠商事、リクルート、生協
小計	39	74	
進学	81		京都大学大学院修士課程(電気系専攻80名、応用システム科学専攻1名)
		9	京都大学大学院博士課程
その他	1	2	研究生、研修生等
計	121	85	

電気系教室昭和63年度卒業生の進学並びに就職状況について御報告申し上げます。

学部卒業予定者121名(外国人を含む)の内、81名が大学院修士課程へ進学し、39名が就職、1名が未定です。なお、このほか13名が留年して再度大学院に挑戦する予定です。

大学院修士課程の修了者85名中、9名が博士課程に進学、74名が就職し、2名は研究生等で残ります。

さて、大学院の電気系修士課程入学者は上記の80名のほか、理学

部と同志社からそれぞれ2名ずつ合計4名が加わり84名の新修士一回生を迎える予定です。博士課程では、内部からの進学者に9名に加えて、2名が外から加わり合計11名が博士課程に進むこととなります。

博士課程への進学者のうち、留学生の占める割合は3割以下で、日本人の占める率が増えたことは学問の後継者を育てる意味で悦ばしいことと思われまふ。

就職の状況は一覽表にまとめてあります。今年度も、各方面にわたる多数の会社からの求人があり、学生の数に限りがあることが恨めしく感じられました。株式のボス

トの分類でみると、求人がなかったのは、最後の興行関係の会社くらいで、いかに電気、電子の卒業生の活躍の場が広がっているか、を如実に示しています。今年も金融、広告などの第三次産業の求人意欲は強く、学生も給与の面で製造業離れの傾向が昨年よりも強くなりました。又、同じく給与の点から、会社選択の条件の中に、労組についても目を向けていることが今迄にない事でした。又、大会社指向が薄れ、興味を持った仕事ができるかどうかに関心があつたようです。

今年度は、約10%の学生が商社金融、生保、広告などに就職する

### 平成元年度洛友会総会通知

一、年月日 平成元年6月17日(土)  
 一、場所 東京目黒八芳園 最寄駅 山手線目黒駅下車  
 TEL 03-44313111代

一、行事 受付 13:00  
 東京支部評議員会 13:30  
 東京支部総会 14:30  
 本部総会 15:40  
 懇親会 17:00  
 会員会 19:00  
 一、会費 四、〇〇〇円  
 二、〇〇〇円  
 三、〇〇〇円  
 四、〇〇〇円

会費は、別紙総会振替用紙にてお払込みください。なお、これだ総会出席通知に代えますので、ご出席の方は5月20日までにご返事をお願いいたします。本会へはご家族同伴を歓迎しますので、多数お誘い合せの上ご出席ください。

ことになりました。主任一同随分と努力致しましたが、限界もありこの傾向について、製造業関係者ともども、真剣に対策を考えなければならぬと思ひます。

なにはともあれ、今年度も就職

### 電算化名簿第4版発行について

電算化名簿第4版が平成元年11月末日に発行されることになりました。例年の如く名簿送付対象者は、昭和63年・平成元年度会費納入者となります。63年度納入済であるが元年度未納の方にも送付しますが、名簿発行・送付には多大の経費を要しますので、この点よろしくご賢察の程お願い致します。

名簿発送を11月末とする関係上、名簿記載事項の訂正締切期限は元年9月10日といたします。この期日までに変更通知のあった方は新名簿に記載可能です。なお既に振替用紙の調査票、又は葉書等でご連絡のあった方は、訂正済みです。

以上より正確な名簿を作成するため、会員各位のご協力の程を！

### 教官の移動

前号でお知らせした以降の教官の移動は次の通りです。

倉光 正己

昭和63年8月1日、講師(西川研)に昇任、(昭和38年電気工学科卒、昭和40年3月修士課程電気工学専攻修了、昭和43年3月博士課程電気工学専攻修退学)

に関して洛友会会員諸先輩に多大の御助力を戴きました。紙面を借りて、厚く御礼申し上げますと共に、今後とも変わらぬ御支援をお願い致します。

佐藤 亨

昭和63年12月1日、超高層電波研究センター助手より講師(木村研)に昇任、(昭和51年電気工学第2学科卒、昭和53年3月修士課程電気工学第2専攻修了、昭和56年3月博士課程電気工学第2専攻修退学)

昭和64年3月1日、名古屋大学工学部講師より配置換え(上田研)(昭和49年3月名古屋大学工学部電気工学科卒、昭和51年3月同修士課程電気工学専攻修了、昭和54年3月同博士課程電気工学専攻修退学)

### 支部だより

東京支部

六十三年度行事報告

支部総務幹事

林 敏之(昭44卒)

昭和63年度の東京支部の活動が、昨年の6月末の支部総会を皮切りに開始して以来趣味の会、グループ活動については、一部本会報に報告されているが、支部のメイン活動が今まで報告されていないため、8ヶ月を経た今、中間報告をさせていただきます。

奥村 浩士

昭和63年10月1日、超高層電波研究センター助手より講師(小倉研)に昇任、(昭和50年電子工学科卒、昭和52年3月修士課程電子工学専攻修了)

昭和63年11月1日、講師(木嶋研)より助教教授(木嶋研)に昇任、(昭和41年電気工学科卒、昭和43年3月修士課程電気工学第2専攻修了、昭和46年3月博士課程電気工学第2専攻修退学)

### 一、支部評議員会と支部総会

昭和63年6月25日(土)八芳園にて、15時から開かれた評議員会に引き続き、支部総会が16時から開催された。

総会への出席者は60名で、本部から大谷副会長、近藤常任幹事、教室からは荒木教授が参加していただいた。

総会は、前支部長の挨拶に始まり、昭和62年度の行事と決算の報告、新役員の選出、昭和63年度の計画と予算が審議された後、米寿の方お2人、喜寿の方お2人のお祝い、荒木教授からの教室近況の紹介があった。

総会後の懇親会は、大谷先生の乾杯の音頭に初まり、米寿のお祝いを受けた中村様(大正10年講卒)のお話など、スピーチの合間で、久しぶりの再開を祝す顔ぶれ、近況を語り合うグループ等話に花が咲き、終りのない会となりそうな雰囲気であった。遠くまで帰られる方もあり、19時30分に閉会とした。なお当日はあいにくの雨模様であったが、懇親会終了時にはあがっていた。

### 二、支部旅行会

恒例の支部旅行会のコースは、大河ドラマの「武田信玄」に因んで、甲斐の国めぐりとしました。当日昭和63年10月25日の集合は、新宿西口8時30分と早かったにもかかわらず、50名(同伴者21名)が定刻に集合され秋晴れの中を甲州へ向った。

約2時間のバスの旅で、最初に訪れたのは山梨県立ミレー美術館で、我国ではめったに見られないミレーの作品と、広い庭園を満喫した。

昼食は、大善寺の精進料理で、石段の上にある薬師堂内の薬師如来像を参拝した後の昼食は格別であった。なお当寺は奈良時代の僧行基の創建で歴代天皇の勅願所と言いう由緒のある寺であります。

昼食後は、武田信玄の屋形の跡に建立された、武田神社を訪れた。木立が生い繁り、堀には雁や家鴨が泳いでおり、静かな一時を過ぎた。

最後のイベントは、甲斐と言えばどうと言うことで、ぶどう狩りを楽しみ、一日の甲州の秋晴れを楽しんだ後、帰路に着いた。

### 三、東京支部見学会

見学会は、当初年内に実施することを計画していたが、昭和天皇の病状悪化、大喪の礼により計画

を立てることが出来ず、平成元年4月1日に行うこととした。

見学先は、東京電力の佐藤氏(昭和36年卒)のお世話で豊島地下変電所と電力館の予定である。

以上

### 同窓会だより

#### 奥原芳誉君追悼

大正十五年卒業  
小宮義和

昭和63年9月19日の朝、御令息芳夫君から、奥原芳誉君の御逝去を承り、経堂のお宅へ伺った時は、御入棺前で、昨夜寝床に就かれたままの、安らかなお顔であった。

学生の頃はつんぐりとした柔道選手のような身体恰好であったが、製図をさぼって、その側のテニス・コート(現在の第二電気教室辺)でテニスを楽しんだことが、思い出された。

青柳先生と御同郷の長野県松本辺の御出身と伺ったが、深く交際した記憶はない。

御卒業後は東邦電力—日本発送電—東京電力と御勤務になり、東京電力茨城支店長時代には、電力大不足で、私の勤務先も何かとお世話になったと、後日聞いたが、わたくしの交際は途絶えていた。

10年位まえ、箱根で集った14日会(大正14・15年卒同窓会)で、故一本松珠璣氏夫人が階段で脚をすべらせて倒れられ、故橋本真吉氏の車で、急ぎ東京へ運ぶことになった時に、奥原君はしんみりとして「この14日会も、その最後がみじめなものにならないように」と洩らされた。まさにその時が来た気がする。

現在「14日会」は関西に住む口羽玉人君と田中卓次君の奉仕によって支えられている。

はじめの頃は関東・関西一年毎の交代で、世話をすることになっていたが、近年それが出来ず故富永和郎君が、屢々「申訳けない」とこぼしていられた。

奥原君は洛友会東京支部と連絡して、大正年代卒業生の「鶴友会」のお世話をずっとして下さった。この「鶴友会」は、鳥養先生や松田先生の御上京の日に合せて開くことが多く、昔関西に私が勤めていた頃よりも、かえって両先生に接することが多かった。

今日では両先生にお目にかかることなく、鶴友会も3月に一回が、とかく延び勝ちで、奥原君が心配されたような「みじめな」姿になって行く気がする。

それに付けても、永い間何かとお世話を下さった奥原君とお別れは、実に淋しい。(63・12・6)

### 18年卒同窓会 四十五年周年記念

私共は大戦中昭和18年9月23日学徒動員にさきがけること約1ヶ月、夏休を返上して卒業論文を書き上げた後、繰上げ卒業により、我が母校の電気教室を巣立って直に戦線とかり出された者達であり、ここ数年毎年関東組、関西組と交代で幹事を努め同窓会をやってきましたが、何時の日にか第一線を退く者も増し、また大学で教鞭をとる者、会社の主要経営陣に留まる同輩も少なしとはせぬものの、45周年ともなれば流石に突如おのが白髪を意識する年代ともなり急激に物故者の数を数え出して来るに至っては増々同窓のなつかしみも増し45年前の如意ヶ岳を眺めつつ春秋の夢多かつた学生時代が懐しく、ここに旧学の古都に参集して45周年のクラス会を行なう事となった。

奇しくもこれが我等が生涯の大半を占めた昭和の終焉の年とならうとは一段と思えば感慨の深いものである。

幸い諸士の思いの結集があったと見えて集合した同窓の数は夫人を含めて89名、今までの最盛会であった事は在京の世話人として感



動に耐えない所でありました。  
恩師羽村二喜男、清野武、大谷

泰之の諸先生も快く御出席を了と  
されて懐しいお話を拝聴出来、一  
夕を共にさせていただいた事は誠  
に忘れ難い事でした。少々遅まき  
ながら行事の次第を会報の一ペー  
ジに留めさせて置き併せて諸先生  
へのお礼の言葉に替えさせて載こ  
うと思ふ次第です。

クラス会は去る昭和63年11月13  
日(日)14日(月)にかけて行わ  
れた。角田京阪電車社長(同窓)  
の御尽力もあって一同京都駅前ホ  
テル京阪京都に宿を決めた。第一  
日目(13日)は午後2時にホテル  
を出発して観光シーズンで混雑す  
る市中をぬけて五条坂へとたどり  
着き五条坂を登り清水寺の舞台よ  
り千年の古都を眺めた。例年にも  
増して季節よろしきを得た樹々の  
紅葉は千年の霊水をしたたらせる  
音羽の滝や東山の霊峰を染めた。

産寧坂、二年坂をそぞろ歩きの後、  
大雲院の高樓に登っては再び安土  
桃山時代をめぐる栄華と動乱を忍  
び下って円山の桜花の足下をめぐ  
り知恩院の山門(修理中)を眺め  
つつ青蓮院の附近のさる料亭にた  
どり付いて、一夕を持った。

夫人を混えた40名近い大宴会は  
なごやかに和様の座敷で進んだが  
中でも宴中招じ入れた数名の芸妓  
による祇園おどりは夫人達の意外

の興味を引いて楽しい雰囲気をか  
もし出した。

第2日目、(14日)月、は本番の  
修学院離宮の拝観、金閣寺、竜安  
寺、大仙院の拝観、精進料理とな  
ったが何処へ行っても古都は紅葉  
の真盛り、中でも修学院の北山を  
借景とした秋景は京友禅染の源も  
これぞとばかり誠に席卷であった。

関西組は関東組に便をゆずり修学  
院を翌15日に訪れたが、連日うら  
らかな小春日和にめぐまれて秋の  
行楽に趣を添えた。また来年の再  
会それまでの各自の自愛をいまし  
め合つて京都駅の解散となりました。  
さて平成元年のクラス会は何  
処となるでしょうか次期世話人の  
御奮闘を願う次第です。

以上(川口龍夫記)



### 昭和六十三年十一月十三日・十四日 の昭和十八年卒業四十五周年記念京都同窓会に 出席の為、早朝金沢を出発して。

「業平の逢坂の関」ぞ今越えし

京の山波近くなりけり。

伊勢物語。「徒人の渡れど濡れぬ縁あれば

……また逢坂の関を越えなむ」を想いて

加茂川の流れ車窓にブレイキは、

次第に効きて、京に近づく。

懐しの、京都に降り立ち同窓の、

案内状を確かめて見つ。

同伴の、娘は既に四十の

マダム顔して、面映ゆきかな。

菊の宴、心弾みて友は皆、

昔に返り想い花咲く。

貫禄を付けて奥方にこやかに、

自信の程は、亭主らよりも。

読経の声、朗々と紅葉する、

伽藍に響けり、澄み渡る空。

(西国第11番札所醍醐寺に参詣して)

観音の御利益ならむ、年更けて、

友の誘いに、修学院を観る。

(西国第16番札所清水寺に参加の各各位と参詣して、)

人を避けて、波乱の晩年過ぎし、

「上のお茶屋」や、山茶花の路。

比えい山の、麓に近し紅葉燃ゆる、

離宮は今も面影の儘。

あどけなき残る舞子のかんざしに、

祇園小唄を、しみじみと聴く。

舞い収む「白い衿足だらりの帯よ、

すこやかなれと、祈らるるかな。

田辺 輝雄

### 中国雑記(8)

昭和二十三年卒

陶 坊 資

### 板トイレ

浙江省で面白いトイレを見た。  
先ず、肥靈があり、そのこちら側  
のふちに板で出来た低い衝立があ  
る。高さは、約40センチから50セ  
ンチ位である。人間はこの衝立の  
こちら側にこちら側を向いて立ち、  
ズボンを下ろしてその衝立の上に  
腰を下ろす。即ちお尻を衝立の向  
うの肥靈の上空に突き出す。そし  
て用を足すのだ。大便は、一般に  
そのまま、肥靈に落ちる。小便は  
衝立に一度ぶつかり、はねかえつ  
て壺に入るから、ズボンや足には  
かからない。

しかし、この姿勢は極めて不安  
定である。一寸重心を後に寄せ過  
ぎると、即ち尻を突き出し過ぎる  
と、忽ち後にひっくり返つて、肥  
靈に真逆さまにドボンという事と  
なる。さすがの私も、このトイレ  
では、バランスをくずさぬ様緊張  
せざるを得ず、おちおちと排泄を  
楽しむ等の余裕を持つ事は出来な  
かった。

このトイレは、道路の横によく  
見かけるが、道路から見ると、こ

ちらを向いて、うつむき加減に腰かけている姿が見えるのみで、排泄の最中には見えない。

このトイレは、浙江の田舎で見たことあり、他では見なかった。全く別な話だが、船を操るのに手を全く使わず、腰かけて足でオールを漕ぐのも、私の知る限りこのあたりだけである。浙江は、あの偉大な周恩来、蔣介石、及び文豪魯迅等を生んだが、この様な一風変わった風習と施設をも生んでいる。

### 養魚トイレ

広東の珠江三角洲地帯を行くと池が実に多い。池は勿論灌漑が主な目的であろうが、同時に魚を養っている。更に家鴨や鵝鳥を飼っている所もある。

池の端には、大抵小さな小屋が水の上にかかっている。これがトイレなのだ。ここから池にポチャンと落とすと、飼っている魚共が、ドッと群がって来、忽ちの中にきれいに喰い尽くしてくれる。だから広東料理で必ず出る草魚は、油っこく肥えていて、実にうまい。勿論魚は人糞でなく、他に餌をまいているとは思わう。

一年に一度か二度、池の水を落とし、底に溜っている大量の魚糞の槽をさらし、これを畑にまく。実

によい肥料である。これも極めて合理的な自然のリサイクルである。北方では豚を通してであるが、南の水の豊富な地方では、魚を使つてこの循環を達成させているのである。やはり、千古来の人民の生活の知恵なのであろう。

### 川トイレ

広東は、池ばかりでなく、川も多く、特にパールリバーのデルタ地帯では、網の目の様に、川が入り組んでいる。その岸には小屋がけのトイレが多く見られる。土手から踏み板の上を歩いてこの小屋に入ると、小屋の床にいくつもの穴があいており、穴の下は川面である。この小屋の床面は、何故か水面から相当高い所に架設する。だから、水際を歩いて行くと、小屋の床を下から眺める事が出来る。その小さく見える床の穴から、勢よく飛び出し、川面に散るしづきや、あの高さからヒューとうなりを立て、落ちて来た固体が、ポチャンと水中にとび込むのがよく見えるのだ。川には勿論魚がいて、池と同様一瞬の間に片づけて了う訳である。

日本民族は、そもそも、南方から黒潮に乗って流れついたものであるとの事、昔は同じ様に川や海に流したらしい。かわやの語言

は、川べりにかけた小屋から来たものと聞く。そう云えば、昔比叡山に修業でこもつた時のトイレは確か谷川の上にかかっていたと記憶している。谷川の溪流と深山の野鳥のさえずりを聞きながら、心ゆくまで排泄を楽しんだ筈であるが、今はそれ以上の事は思い出せない。

### デモ集会

中国は政治的な理由でよくデモ行進や大集会をやる。今は少なくなつたが、メーデーや国慶節には、天安門前の広場、所謂人民広場で何十万人の大衆が集まつて集会をやり、デモ行進をする。今までの最高記録は、一九六〇年の日本の安保反対の闘争の支援デモ集会であり、三百万人が集まつたとの事、勿論私も動員されたので、三百万分の一を構成した訳である。

そこで、これだけの人間が集ると、先ず考へるべき事はトイレであろう。勿論あの天安門前広場の隅には、公衆トイレがあり、しかも相当大規模のものがいくつもあるが、それはあくまで平常時のためであり、デモ集会ではとても足りる訳はない。その対策として、北京市は慣れたもので、実に要領よく次の如くあつたという間に大量のトイレを出現させて了う。

天安門前の大通り(長安街という)の歩道、相当の幅があるが、よく見ると、鑄鉄製の長方形の蓋が、定間隔で並んでいる。これがトイレの落とし穴なのだ。大集会やデモがある直前(一般には夜半)に、この蓋をどんどんとり除く。そして、その外を簡単な天幕で困う。これで忽ち公衆トイレが出来上がる。この長方形の穴の列は、その下に掘られた溝でつながっており、下水に通じているのである。溝の片側から間歇的に水が噴き出るので、穴に落ちたものは、その度に一挙に流されて了う。

男女は、別々に天幕を張るが、勿論両方共青天井で、お互いの中に、仕切りなどはない。人々は、その長方形の穴にまたがり、しゃがんで、やはり前後左右の者と、適宜だべり乍ら、糞を垂れるという事になる。男性の小用には専用のものであり、当然のことながら、こちらは極めて簡単である。

ついでに言うと、デモで沢山の人が集まると、特に暑い日には、飲料水の問題が起る。これも予め歩道にデモ用の水道管が埋められているのである、定間隔に設けられている分岐点に、高さ約一メートルの蛇口をとりつければ、歩道に沿って、ズラッと水飲み場が並ぶこととなるのだ。

蛇口をとり外し、天幕をたたみ、鑄鉄製の蓋を、片っ端からかぶせて行けば、それこそアツという間に元の広々とした歩道が蘇生する訳だ。実に見事である。北京に旅行し、天安門広場を散策する方々が多いが、その足下に公衆トイレがある事を御存知の方は、殆どおられないであらう。

昔のデモ集会では、トイレ車というものをよく動員していた。大型バスの客席の代りにトイレを並べた奴である。確か東欧製であり、外見は中々立派であった。しかし評判は余りよくなく、何時の間にか姿を見せなくなつて了つた。やはりあの狭い密室は、人民の体質に合わないのかとも思える。

### 汽車のトイレ

中国の汽車は標準軌であるから日本の新幹線と同じ幅である。普通は通路の両側に夫々二人と三人が腰かけるが、グリーン車(中国では軟席という)は二人づつ四人が並ぶ。この客車の前後両端に、トイレがあり、片方は腰かけ式で他方はしゃがむ方式である。トイレの向い側は洗面室となる。汽車には、列車長、警乗等の職務の者の外、夫々の客車にも、服務員と称する者が沢山居り、汽車の中を常に行ったり来たりして、

サービスをする事になつてゐる。トイレの掃除も彼女らがする筈ではない。トイレの床は一般には水びたしで便座もビシヨビシヨ、さすがの小生もあの上に直接腰かける勇氣は生じない。靴をはいたまま便座の上に乗つて、しゃがむのである。勿論汽車は走っており揺れがひどい時は、安定が悪いから、洪水の如き床に転げ落ちない様に注意しなければならぬ。聞いて見た所、私の知る限り、他の方々、男女を問わず皆同じ様にされておられるとの事。

トイレは勿論直接車外に落す方式である。傍にあるレバーを押すと、便器の底がバクッと開く。その下はゴーツと音をたて、地面が後方に飛んで行くのが見える。向きにより、下から吹き上げて来ることもある。何の事はない、送風機の上にはしゃがんでお尻を冷やしている様なものだ。

そう云えば、日本の国鉄も昔は垂れ流しだった。大阪駅で、電車待ちをしている時、向い側のプラットフォームに長距離列車が入つて来て、そのトイレからドツとレールの枕木や砂利上に落ちるのを見たものだった。あの頃は、駅に着いた時は、車上のトイレは使用御遠慮下さいとか云う注意書があったと思う。勿論今のJRは、殆

どが、循環式に改造されて了つてゐると聞く。

中国は、今は全く問題にしていないから相変らずの垂れ流しである。放牧の豚や野犬が処理してくれ、太陽や雨水によつてもすぐ風化して了うからよいのである。しかし、これも公害と同じで、量が多くなれば当然問題となつて来るので、いつか分らないが、その中にはやはり、循環式にとつて代られるであらうと思う。

### 駅のトイレ

駅のトイレは、どこも同様、余りきれいではない。中国は特に都会と農村との生活文化レベルの差が大きいため、地方人の利用する機会が多い駅トイレは相当ひどい。生来神経鈍鈍を自負する小生でさえ、一寸辟易する様な所もある。

駅トイレは、殆どが規格品であるから、とりたてて説明する必要もなからう。その中でプラットホーム、特に夜行列車が着くホームには多少大き目のトイレがある。中国の汽車は、前途の如く垂れ流しであるから、駅に着いている時は車上のトイレは使用禁止となる。故に汽車が駅に近づく時、乗客が、すべてのトイレに外から鍵をかけて了うのだ。だから停車後は、一旦下車し、車外のトイレを

探さねばならない。プラットホームのトイレは、それ程大きくないから、沢山の客が押しかければ、忽ち満員となる。汽車が着くと同時に、待ちかねた様に、あちこちの車輻の扉から、お客がバラバラと飛び降り、トイレに向つて一斉に殺到して行くこととなる。トイレは、規格品であるから、中は開放的であり、うすくまづいても列車が止まっているのがよく見える。所が中国の汽車が発車する時は、一般にアナウンスもせず、ベルや汽笛も鳴らさないのが普通であり、何時の間にかそろりそろりと動き出す。しかも中国の汽車はよく遅れるし、又何時発車するか誰も分からない。急行が止まる大都市では、一般に停車時間は十分から二十分であるが、これもあてにならない。この何時発車するか分からない汽車を、トイレで見ているのだ。未だ充分排泄を遂行し終えていない時、列車がしずしずと動き出すと、あわてて尻を拭い、ズボンを引き上げ乍らとび出し、速度を徐々に上げて行く汽車に向つて突進する事となる。幸の事に中国の汽車の速度上昇は、それ程速くないし、ドアも自動開閉ではないので、ズボンを押さずら、乗客達が、動く汽車と共に小走り移動しつづ、次々に飛び乗つて行く事が出来るのだ。この様な光景は、

### 人糞肥料

長距離列車が着く朝のプラットホームでいつも見かける光景である。私も、あちこちへ出張し、夜行にもずいぶん乗つたが、車輻のトイレは狭苦しい密室であるので、なるべく利用せず、駅に着くや否や、プラットホームのトイレに飛んで行ったものだった。最近では遠い所は殆ど飛行機を利用するので、プラットホームのトイレは、全く利用する機会がなくなつて了つた。

人糞を肥料にする、これも太古以来の農耕民族の生活の智慧であり、自然のリサイクルである。豚や魚の腹を通じてのリサイクルについては、既に述べた。それ以外の場合には、人糞を直接肥料として用いるのであるが、北と南とはその使い方が異なる。北方では、都会の一部を除けば一般には、地面に直接穴を掘つたわけであるので、水分は土中にしみ込んで了い、固体だけが残る。或量だけ溜ると、薬灰と土とを適当にぶつかけて混ぜ合わせる。これでパサパサした肥料が出来上がる。これを畑にまくのだ。即ち水分は利用せず、全部土中に捨て去つて了う事になる。

南方では、大きなかめを埋めてそこに溜める。故に水分も一緒に

ドロドロの形状である。溜めている中に、自然に発酵し、その熱で細菌や寄生虫を殺して了うのだが、その効果はどうか、確かめたことはない。この流動物を肥桶に汲みとり、これを直接農作物に施すか、又は糞や草にぶつかけて寝かせ、堆肥を作つて使うか。どちらかと云うと、南方の方が日本の昔の農業に似ている気がする。(以下次号)

### 事務局だより

#### 電気評論社本社の移転について

従来応用科学研究所内にあった電気評論社本社事務所は、昭和63年9月26日より左記の通り移転しましたのでお知らせ申し上げます。

#### 記

株式会社 電気評論社

〒606

京都市左京区吉田河原町14

近畿地方発明センター内

TEL 075-761-0530

FAX 075-761-0985

振替口座 京都519906

居住不明者一覽表 平成元年3月31日現在  
表中敬称略

第3版電算化名簿発行後、名簿には住所が記載されているが、洛友会会報が2回以上連続して返送されて来て  
いる会員を調査しましたところ、下記のとおり居所不明に該当する会員名が判明致しました。

従って新名簿には居所不明者として記載はされてはいませんが、今回の掲載以後なお居所不明の場合は、居所  
不明者として登録致します。

当該会員中講習所卒業生を除き大部分の方の旧勤務先が判明しておりますので、旧勤務先の方、同期の方、若  
しくは、当該会員のご消息をご存知の方は、お手数ですが事務局までご連絡を賜りますようお願い致  
します。なお、卒業年次の次の数字は、0：1：電気、2：電子、3：電Ⅱ、4：昭和16年3月卒、5：昭和16  
年12月卒、6：昭28新制卒、8：講習所卒を示します。

卒業年	氏名	勤務先	卒業年	氏名	勤務先
昭26	西村 佳寿雄	四国理研	昭55.2	桑原 紳一郎	元ソニー㈱
〃46.1	浦野 善郎	元ダイキン工業㈱	〃55.2	平田 徹	元丸紅
〃47.3	更井 正和	元阪神電鉄	〃57.1	勝山 実	東芝 府中
〃49.2	中山 茂	元京都工芸繊維大学	〃43.1	中野 英朋	HDK ヒュディック
〃54.2	岸本 高明	岸本ギター	〃54.2	中辻 文男	元日電ホームエレクト

会員住所変更一覽表 平成元年3月31日現在  
(表中敬称略)

前号(平成元年1月号)に題記発表後3月31日までに次の会員の住所変更のご連絡がありましたので掲載致し  
ます。これ以後の分は、次号掲載とさせていただきます。あしからずご了承ください。

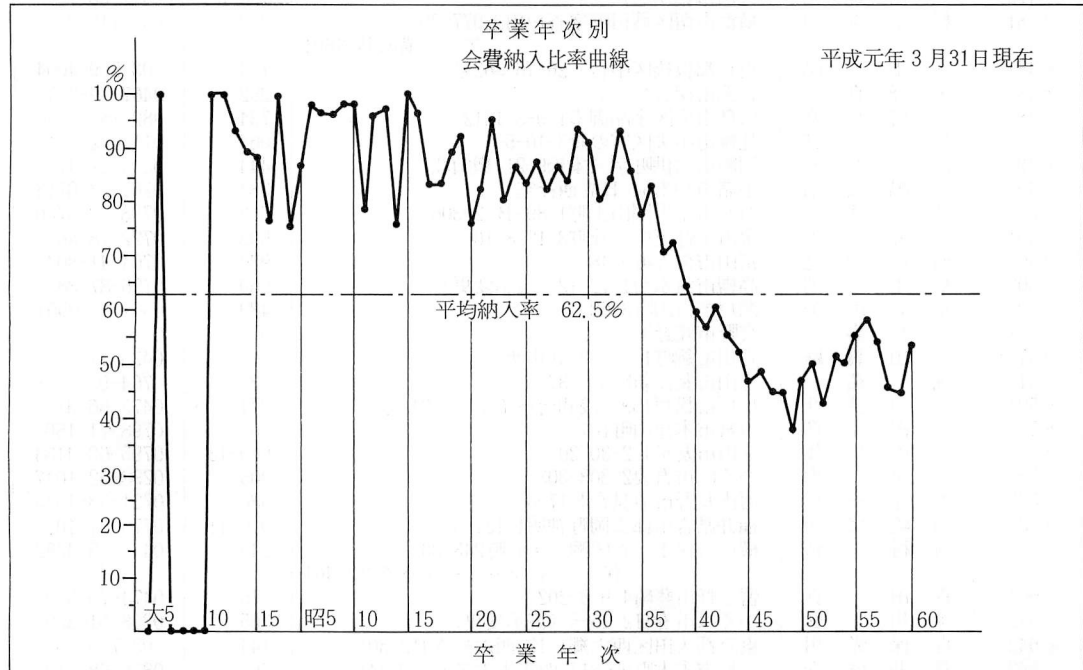
表中、卒業年次の次の数字は、前掲居所不明者一覽表中の表示と同一です。

卒業年	氏名	住所	☎	電話
昭118	田中 遠一	調布市国領町8-1-35 くすのき団地8-501	182	0424-88-4708
〃164	小林 忠男	大阪市淀川区中島2-4-14	532	06-308-1503
〃210	日下部 悦二	横浜市緑区東本郷町3-12-25 (表示変更)	226	045-472-1096
〃220	池上 文男	町田市鶴川4-28-7	194-01	0427-35-2987
〃230	彭 錫	中華人民共和国北京市海淀区車公庄西路10号		
〃230	深井 泰	東京都品川区上大崎3-13-21-312	141	03-448-0421
〃240	井上 守	吹田市山田西3-21 レックスマンションA615	565	06-876-1130
〃240	岡崎 清	横浜市金沢区富岡西4-43-17	236	045-771-7502
〃250	奥村 徹	川西市南花屋敷3-3-4	666	0727-56-3437
〃260	原田 房	箕面市大字小野原東5-2-46 (表示変更)	562	0727-28-6123
〃290	田中 晃	千葉市都賀の台2-2-3	260	0472-84-3154
〃310	上田 源三	埼玉県児玉郡上里町七本木三田3501-14	369-03	0495-33-5130
〃331	白庄司 昭	調布市染地2-30-3-206	182	0424-88-9255
〃331	廣 豊	勝田市石川町26-19	312	0292-75-2073
〃341	松野 隆昭	与野市鈴谷7-6-3-1311	338	048-856-3717
〃362	須崎 渉	西宮市塩瀬町生瀬1188-158	669-11	0798-84-2539
〃362	田中 隆	東京都北区神谷1-3-1-906	115	03-911-9988
〃371	荒牧 達	奈良市平松4-17-10 (表示変更)	631	0742-44-2980
〃381	真栄城 朝章	福岡市城南区长尾2-3-36-405	815	092-526-7865
〃401	岡 健太郎	千葉市園生町981-34	281	0472-55-3668
〃401	仁田 昌二	西宮市常盤町3-22 仁田工吉方(留守宅)	662	0798-26-3822
〃403	井上 曉	西宮市上之町27-18	662	0798-67-4752
〃411	宇野 克彦	福岡市中央区六本松4-4-20 九電六本松アパート7332号	810	092-715-7487
〃411	永井 正志	池田市石橋1-17-3	563	0727-62-4668
〃411	上出 泰生	日立市諏訪町4-14-6	316	0294-32-2392
〃441	望月 一英	町田市山崎町1223 シーアイハイツA-304	194-01	0427-92-8206
〃421	小川 忠彦	小平市上水本町1-7-8 (表示変更)	187	0423-24-3690
〃431	高木 健起	広島市中区国泰寺1-8-14 中電国泰寺寮3-H	730	082-241-2993
〃432	小松 昭男	小平市上水本町2-9-30 (表示変更)	187	0423-21-0874
〃443	山内 英樹	東京都江東区白河4-9-16-405	135	03-642-3540
〃451	田村 和豊	奈良市東登美ヶ丘4-9-4	631	0742-46-6020



卒業年	氏名	住所	番	電話
昭452	森田憲一	勝田市馬渡2920-69	312	0292-74-2770
〃453	伊藤正一	福島県伊達郡保原町字鉄炮町7	960-06	0245-75-3953
〃453	向川敏	茅ヶ崎市円蔵1-17-22 (表示変更)	253	0467-51-9073
〃453	徳川仁	川崎市宮前区宮崎1-4-26 ソレイユ宮崎台101号	213	044-866-8241
〃461	弘志	東京都世田谷区奥沢7-7-14-104	158	03-701-2067
〃462	辻井潤一	京都市北区紫野雲林院町78	603	075-431-6744
〃463	井沢孝治	辻井元二郎方 (連絡先) 横浜市港南区丸山台1-16-23 丸山台ロイヤルハイソ102	233	045-843-5373
〃471	渡部清美	福井県三方郡美浜町佐田けやき台618	919-12	0770-38-1413
〃472	藤原久	城陽市富野北垣内62-10	610-01	07745-3-2596
〃473	熊田純	町田市鶴川2-16-22	194-01	0427-35-7605
〃481	村上泰司	横浜市南区蒔田町字谷戸田上977-20 アルス横浜蒔田601	232	045-715-2757
〃481	八木剛	東京都板橋区中台3-26-16-302号	174	03-509-4004
〃481	天野真家	綾瀬市深谷45-16	252	0467-79-0553
〃481	六信正文	広島市南区宇品御幸1-9-3-1212	734	082-255-1156
〃482	杉原誠	札幌市中央区宮の森3-10-5-1	064	011-642-7675
〃491	富原直	岡崎市六供町字三本松9-21 嶺山荘	444	0564-22-4781
〃492	平嶋賢	小諸市柏木54 日立西社宅	384	0267-23-8713
〃501	世良武	西宮市甲陽園山王町1-89-B-2-306	662	0798-73-5730
〃501	園井康	堺市上野芝向ヶ丘町3-1228-16	593	0722-78-4690
〃501	園船利	富山市久方町9-48	930	0764-41-8045
〃502	松本茂	高槻市清水台1-12-12 (表示変更)	569	0726-87-3825
〃503	足立茂	瀬戸市白山町2-68	489	0561-21-0561
〃512	枝松一	交野市幾野3-29-12	576	0720-92-7967
〃513	池田義	立川市錦町1-13-12 立川サニーコート1012	190	0425-27-9802
〃513	堀祐一	富山市長江新町3-4-37	930	0764-93-1348
〃521	平田英	松戸市松戸1591 浅間台ハイホーム316号	271	0473-66-3136
〃523	法田雅	西宮市木津山町101	662	0798-71-1509
〃532	孤田卓	三田市友が丘2-30-20	669-13	0795-62-4184
〃533	井佐原均	つくば市吾妻2-808-303	305	0298-52-1047
〃533	大川一	河内長野市清見台4-17-5	586	0721-63-1873
〃533	河崎修	福井県吉田郡松岡町神明1-131-5	910-11	0776-61-1052
〃533	河村修	横浜市保土ヶ谷区瀬戸ヶ谷町243-80 保土ヶ谷 ファミールハイソ2-401	240	045-715-4082
〃541	森田真	習志野市藤崎4-9-8-202	275	0474-79-5707
〃542	森保光	つくば市春日2-15-5 (表示変更)	305	0298-51-3591
〃542	真保光	東京都大田区西六郷1-13 西六郷A P2-301	144	03-735-5668
〃542	長井啓	高松市木太町9区817 四電木太アパート241	760	0878-68-0105
〃542	廣瀬雄	東京都渋谷区猿楽町16-1-406	150	03-770-6607
〃543	山田昭	横浜市戸塚区平戸町1219-1 緑の街2-208	244	045-825-1684
〃551	石尾圭	海老名市中新田1529-1 コスモエビナ203号	243-04	0462-34-4732
〃551	石崎正	愛知県幡豆郡一色町大字赤羽字浜田8	444-04	0563-73-5863
〃551	山本恭	小平市学園西町1-14-16 ビュラーツ橋B-205	187	0423-42-7614
〃552	中村敬	深谷市常盤54-6 三菱電線工業社宅112	366	0485-71-9578
〃561	林重	久居市新町2721-1	514-11	05925-6-7645
〃562	大津山	座間市入谷5-2558-5	228	0462-56-8457
〃562	水野廣	刈谷市一色町2-10-1 ユーハウス刈谷5E	448	0566-23-6831
〃563	原橋正	鴻巣市赤見台2-14-79	365	0485-96-7656
〃563	原裕	武蔵村山市大南4-21-31 エステート大南2-301	190-12	0425-66-3077
〃571	大田俊	福岡市博多区三筑1-3-8 サンコーポ三筑103号	816	092-501-7259
〃571	杉山内	名古屋市名東区扇町2-1 中電西山アパート6-202	465	052-782-3637
〃571	竹山智	富山市山室394 コーポラス福島106号	939	0764-25-9147
〃571	弘津研一	伊丹市池尻6-82-1 パレ武庫川プレミエールⅢ616号	664	0727-83-5263
〃572	住田敦	名古屋市名東区高間町369-1 TS マンション2W	465	052-704-0585
〃573	中村敏	岡崎市細川町字扇田59-52	444-21	0564-45-5051
〃573	阿部徹	横須賀市林2-1-3-4-403	238-03	0468-57-3786
〃581	大尾植	奈良市菅野台7-10	631	0742-43-6536
〃581	河崎博	横浜市港北区菊名7-3-38 メゾン菊名303	222	045-433-5477
〃582	河原秀	奈良市大宮町4-270-4 ハイソ新大宮406号	630	0742-34-9581
〃582	榎原立	横浜市緑区榎ヶ丘20-16-208	227	045-982-2364
〃582	藤井寿	枚方市香里ヶ丘1-4-E4-306	573	0720-52-2283
〃582	御村泰	鎌倉市岩瀬1-11 住友岩瀬社宅3-203号	247	0467-45-1588
〃591	多田昌	高松市楠上町2-2-11 四電楠上寮412	760	0878-34-6288
〃601	上本康	高槻市日吉台七番町25 日吉台荘A-204	569	0726-87-8489
〃601	滝澤修	小金井市緑町2-5-20 郵政省通信総合研究所寮	184	0423-84-1085

卒業年	氏名	住所	〒	電話
昭602	高橋 光典	秦野市元町6-19	257	0463-82-2702
〃611	泉 泰一郎	府中市東芝町1-13 東芝堀込第2寮A-219号	183	0423-33-2124
〃611	高山 俊昭	飯田市羽場権現1188 中電白山寮	395	0265-52-0108
〃612	海老野 信一郎	吹田市片山町3-4-14-101号	564	06-337-9420
〃613	臼井 英之	州市下加茂1-7-40	656	0799-22-5706
〃621	高橋 正己	半田市成岩本町3-45	475	0569-22-2608
〃623	安田 禎之	座間市相武台2-183 NTT 相武台寮A-311	228	0462-51-4641
〃631	角倉 浩司	赤穂市御崎1656 御崎寮	678-02	07914-2-4021
〃631	中尾 友昭	天理市樺本町2613-1 あけぼの寮521	632	07436-5-0101
〃631	丹羽 輝記	大阪府三島郡島本町青葉3-9-4 NTT 島本寮218	618	075-961-6373



卒業年次別会費納入  
状況について

お陰様で昭和63年度の会計業務も締切り、目下これらの集計中でありませう。

前年に引き続き今年も卒業年次別会費納入状況について報告致します。これらの状況をグラフに表示しますと上図の通りとなります。

このグラフを作成しました集計及び納入者比率の算出基準は、前回昭和61年5月会報一三五号に掲載と同様ですから省略させていただきます。

参考までに会費納入対象者総数(A)四、五八三名(昭和60年卒まで)で、これに対し納入者総数(B)二、八六五名で従って各年次の平均納入率(B)/(A)は、62・6%と比較して約7%の減少となりました。

同上グラフから63年度納入状況を前年と対比してみますと、(1)大正及昭和38年までの間は、平均値を上廻り乱高下も少くない。(2)納入率が平均値を下廻る年代は略。昨年と同様である。(3)平均値を下廻る年代の幅は、昨年と同じであるが底が深く乱高下が多くなった。

以上、大略の傾向を報告し今後のご支援をお願い申し上げます。

編集後記

例年より10日も早く桜の咲いた暖冬も過ぎ陽光うららかな4月を迎え会員各位にはご健勝の御事と存じます。本年も121名の新鋭会員を迎え本会も隆盛の一途を辿っています。

今年は、巻頭にも揭示の通り電算化名簿第4版の発行年に当ります。名簿の正確を期すためにも会員各位のご協力をお願いします。

訃報

講大9	田中 肇	63	12
講大13	才木 浩	63	9
講大14	弓削 正人	63	3
大15	奥原 芳蒼	63	9
大14	前田 武雄	64	1
講大7	高田 竜三	64	1
講大10	岡崎 磨	63	10
講大12	中野常太郎	63	12
講大13	富永 清	63	5
講大13	富岡 正春	63	12
講大15	伊藤 正三	63	3
講大17	藤井 克人	63	12
講大18	細田 寛勝	1	1
講大23	松崎 司郎	63	12
講大28	佐々木修二	62	12
講大50	以上の方々	62	24

以上の方々のご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。